西北地区統合校開設準備委員会（第３回）概要

日時：令和元年１０月８日（火）
９：３０～１２：００
場所：プラザマリュウ五所川原　１階　アリシア

＜出席者＞

委員

福原　直樹 委員、平川　昌史 委員、隅田　佳文 委員、幸山　勉 委員、
尾野　勝 委員、藤田　重彦 委員、成田　正義 委員、阿部　広悦 委員、
長尾　孝紀 委員、中野　雄臣 委員、永澤　正己 委員、佐井　憲男 委員

オブザーバー

県立金木高等学校
加藤　聖子 教頭、佐藤　泉 事務長、今　譲 教務主任

県立板柳高等学校
中畑　要 教頭、山本　美千代 事務長、東海　賢治 教務主任

県立鶴田高等学校
川嶋　幹二 教頭、外﨑　和子 事務長、山内　拓雄 教務主任

県立五所川原工業高等学校
津島　節 教頭、橘　壽雄 事務長、工藤　和樹 教務主任
成田　秀造 工業科主任

１　開会

２　事務局説明

（１）第２回西北地区統合校開設準備委員会における主な意見

■　事務局から資料１により第２回西北地区統合校開設準備委員会における主な意見について説明した。

■　委員から次のような意見があった。

○　第２回開設準備委員会では、様々な課題に対してワーキンググループを設置して検討を進めていくこととされたが、教育課程等の編成に当たっては、開設準備室が設置された時点から材料を集めて作業をすると、時間的に厳しいと考えている。

したがって、今年度内に各校の教員を中心としたワーキンググループを立ち上げ、いくつかのパターンを検討した結果を開設準備室に引き継ぎ、最終的には開設準備室が決定していくこととしたい。

３　意見交換

（１）校名案の方向性について

■　委員長から事務局に対し、校名案の方向性の検討の進め方、県民等への意見募集結果等について説明を求め、事務局から資料２、３により説明した。

■　委員長から各委員に対し、県民等から提案があった「津軽高等学校」を校名案候補の検討対象とするか意見を求めた。

■　委員から次のような意見があった。

○　県民から寄せられた貴重な意見だと思う。しかしながら第２回開設準備委員会で委員から「津軽中央高等学校」という、「津軽」のネーミングの付いた校名案候補が提案されている。また、津軽高校というと、閉校になった岩木高校の前身に当たる高校の校名である。

　これらを勘案して、「津軽高等学校」という名称を候補とせず、「津軽中央高等学校」と同様と解釈し検討を進めてはいかがか。

■　委員長から、「津軽高等学校」を検討対象としない旨確認し、委員から了解された。

①位置に着目したグループ

■　委員長から各委員に対し、位置に着目したグループにおいて、どの校名案候補を適当と考えるかについて理由を付して発言するよう求めた。

■　委員から次のような意見があった。

○　「北五中央高等学校」を支持する。理由としては、提案理由で「今回の統合は北津軽郡と五所川原市の高校の対等統合である」という点が挙げられていること、また、県民等への意見募集結果のマルの２つ目では、「板柳、鶴田、金木を含めた北五という名称が良いと考える。」、同じくマルの３つ目では、「統合校の名称については、統合前の校名にこだわらず、新しいイメージを抱けるものが良い。」という意見があり、統合に際して、やはり新しいイメージを県民の方に抱いていただけるのが良いと思うためである。

○　位置に着目するということであれば、五所川原市の南にある学校ということで、「五所川原南高等学校」を支持する。

○　どこに所在するのかということがシンプルに分かりやすいため、「五所川原南高等学校」を支持する。

○　「北五中央高等学校」を支持する。今回の高校再編に当たっては、吸収統合ではなく、鶴田高校、板柳高校、金木高校と五所川原工業高校が一緒になって、新しい学校を作るという意味合いが強い。「五所川原南高等学校」も考えたが、鶴田高校、板柳高校、金木高校、五所川原工業高校の統合ということを考えたときに、より親しみやすい校名であると思い、「北五中央高等学校」を推薦する。

○　はじめは「五所川原南高等学校」が良いと考えたが、今後、北五地域には、統合校のほか、五所川原高校、五所川原農林高校が残ることとなり、統合校には西津軽郡の生徒も入学するだろう。そのことを考慮すると、より大きく考えて、「津軽中央高等学校」が良いと考える。津軽という地名は県外でも知られているので良いと思う。

○　「津軽中央高等学校」が良いと思う。北五では、あまりにも狭すぎる感じがする。津軽という地名は、県内もそうだが全国でも知られているので良いと思う。

○　「五所川原南高等学校」を支持する。新設校として、統合対象校の特徴を表したいのは分かるが、４校の統合となると難しい。また、それぞれの学校の思いはあるだろうが、それを一つにまとめるのは非常に難しいと思う。
　したがって、我々としては、中学生にとって、どのような校名が親しみやすいか考えて命名すべきだろう。現在でも、高校が立地する場所の地名や方角が県立高校の校名となっており、近隣では弘前南高校や青森南高校がある。これらの地域の中学生は、この校名に非常に親しんでいると考えられる。西北地区の中学生にも同様に親しんでもらえると思い、「五所川原南高等学校」を支持したい。

○　シンプルに考え、現在の五所川原工業高校が五所川原市の南の地域にあるということで、「五所川原南高等学校」が良いと考える。住民にとっても分かりやすい。青森市には青森南高校があり、弘前市には弘前南高校もある。

○　「津軽中央高等学校」が良いと思う。県民からは「津軽高等学校」という意見もあったが、この地域は津軽とか奥津軽と言われているところである。位置に着目ということについて、地元の人たちの位置感覚ではなく、青森県、日本、世界を見据えたときには、津軽という地名は一応ブランド化していると思う。このような観点から、津軽地域の中央にある高校ということで、「津軽中央高等学校」が良いと思う。

○　統合校の普通科を志望する生徒は、五所川原市の生徒が一番多いと思われるため、「北五中央高等学校」は賛成できない。議論の中でいつも吸収統合では

ないといった意見が出る。私は、五所川原工業高校関係者として委員となっているが、決して吸収統合であるとは思っていない。将来の子どもたちのことを考えて意見交換させてもらっているつもりである。そのような意味でも「北五中央高等学校」は賛成できない。また、「五所川原南高等学校」については、以前、閉校となった五所川原東高校をイメージさせてしまう。

　このグループから選ぶとなると「津軽中央高等学校」になると思うが、あえて選びたくはない。このことから、位置に着目したグループについては、意見を控えたい。

○　北五というのは狭い地域という感じがする。「五所川原南高等学校」については、弘前南高校や青森南高校をイメージするが、統合校はそれらとはまた違う高校であると捉えている。

　津軽というと、弘前市や青森市だけでなく、東津軽郡も全て含まれるため、あまりに広大な感じもするが、様々考えると「津軽中央高等学校」が良いと考える。

○　津軽という地域は、太宰治縁の地であり愛着もあるが、果たしてどこを指すかが不明確である。南津軽郡、中津軽郡、西津軽郡、北津軽郡、東津軽郡と全てが津軽である。津軽は大事にすべき地名ではあるが、あえてこの中から選ばせていただければ、「五所川原南高等学校」が良いと思う。

■　委員長から各委員に対し、これまでの意見への質問や更なる意見がないか確認した。

■　委員から次のような意見があった。

○　南津軽郡や東津軽郡といった他の地区もある中で、津軽を名乗ることに違和感がある。果たして中学生が「津軽中央高等学校」という校名に馴染むのかという点を考えている。私としては、やはり「五所川原南高等学校」がスマートに聞こえる。

○　意見の数が拮抗しているということもあるが、事務局からもあったように、開設準備委員会で１案に絞る必要はないので、開設準備委員会からは、「五所川原南高等学校」と「津軽中央高等学校」２案を推薦してはどうか。その上で、最終的に県教育委員会に検討してもらうと良い。これ以上議論しても、なかなか進まないのではないか。

■　委員長から、位置に着目したグループでは、「五所川原南高等学校」と「津軽中央高等学校」の２案に絞り込むこととして良いか確認し、委員から了解された。

②専門学科に着目したグループ

■　委員長から各委員に対し、専門学科に着目したグループにおいて、どの校名案候補を適当と考えるかについて理由を付して発言するよう求めた。

■　委員から次のような意見があった。

○　「五所川原実業高等学校」を支持する。前回の会議では、全国の工業科設置校と普通科設置校の主な統合事例についての資料をいただいたが、それらの統合事例においては、校名に工業や普通といった学科名が前面に出ていなかった。

　実業を支持した理由だが、県民等への意見募集結果には「工業だと非常に狭義な印象を受けるので、より広義の実業という名称がふさわしい。」とある。工業や工科では、一方の学科だけが前面に出ており、統合にふさわしい校名は、やはり両者を勘案した実業であると思う。なお、校名に実業を冠している普通科を持つ高校としては、早稲田実業高校、鹿児島実業高校に加え、旭川実業高校が実在している。

　また、実業高校ということは、一般的に部活動にも力を入れているイメージがあり、今後の学科の方向性を見据え、様々な広がりに対応できる校名であると思う。

○　「五所川原工科高等学校」を選びたい。五所川原市内には、五所川原農林高校という学校もあるし、工業科がある五所川原工業高校に普通科が加わるということで、ふさわしいと考える。

○　「工」の字がついていて、５クラスのうち工業科が過半数を占めることが分かりやすい上に、工業科だけではないという印象が少し強いということで、「五所川原工科高等学校」を推薦する。

○　「五所川原実業高等学校」を推薦したい。今回の統合では、工業科と普通科の生徒が同じ学校で勉強することとなり、また、県民等への意見募集結果にもあるとおり、将来の学校の方向性に対し、全てにおいて柔軟に対応できる校名だと思う。

○　「五所川原工科高等学校」を推薦したい。保護者等にとって、統合校は工業科が中心だということを分かりやすくする必要がある。一方で、「五所川原工業高等学校」では、普通科が見えなくなってしまう。

　実業というと、普通科ではなく商業科のイメージが強いと思う。また、総合というと、もっと広い意味合いとなる。

　これらのことを考え、農業科では五所川原農林高校があり、普通科では五所川原高校がある。統合校では、工業のイメージを出す必要がありつつも吸収統合ではないことを考慮すると、消去法で「五所川原工科高等学校」が良いと思う。

○　このグループでは、全ての校名案候補に五所川原が入っている。
　これでは完全に五所川原市の学校になってしまうので選び難い。強いて挙げれば、「五所川原実業高等学校」が良いと思うが、意見を保留させていただく。

○　もし総合学科でなくても総合という校名を付すことが許されるのであれば「五所川原総合高等学校」も良いと思うが、統合校には総合学科がないので躊躇する。
　「五所川原総合高等学校」以外であれば、「五所川原実業高等学校」を支持する。やはり「工」という字が入ってしまうと、普通科が埋没してしまう気がする。これまで農業高校に普通科が設置されていた例があり、私も同校に勤務した経験があるが、私も含め普通科があったということを知らなかったため、同窓生がかわいそうだと思った経験がある。五所川原工業高校は、今までの実績等があるため、十分に中学生からは支持されると思う。したがって、この統合校はいかに普通科の生徒に来てもらうかを考える必要があると思う。そのような中で普通科が埋没しそうな校名はふさわしくないと考える。

○　総合学科でなくても総合という校名を付すことが許されるものなのか、事務局に確認したい。
→（事務局）本県においては、尾上総合高校という高校がある。同校は総合学科の高校ではあるが、当初は全日制課程及び定時制課程を有し、北斗高校の通信制課程の分室が設置されていたことをもって総合を校名に付している。
　したがって、この例から言うと、総合学科ではないから校名に総合を付すことはできないといったものではない。

○　「五所川原工科高等学校」は、工業より意味が広くなるということで、工業科と普通科が設置されている高校の校名として一理あると思う。しかし、「五所川原実業高等学校」も一理あると思う。「五所川原総合高等学校」は、工業科と普通科のカリキュラムを編成する際に、これまでにないものができるのではないかとの思いもあるが、ここでは意見を控えさせていただく。

○　青森県立高等学校教育改革推進計画は、将来構想検討会議からスタートして、第１期実施計画がベースとなり、現在、開設準備委員会でこのような議論をしているところである。この計画において、なぜ工業科と普通科を併設した統合校にするのかというところが共有されないと、議論が進んでいかないと思う。
　個人的には、生徒の進学や就職を考えれば、五所川原工業高校が今まで積み重ねてきた企業等とのつながりは、新たな校名となることにより、新たにしていかなければならないことが想定される。そういう意味では、「五所川原工業高等学校」が良いと思っていた。
　ただ、今回の統合により、板柳高校、金木高校、鶴田高校、五所川原工業高校の４校が同時に閉校することとなっており、閉校前に統合校が開校すること

となっているので、ここは「五所川原工科高等学校」という校名で収めて、五所川原工業高校で培ってきた就職等の進路希望を達成する様々なノウハウを引き継いでいけば良いと思う。

○　既存の校名である「五所川原工業高等学校」については、県民等への意見募集結果において、最も多い７件の意見があった。

私の意見としては、資料３の４ページ、その他校名案候補に関する意見にある、「『五所川原工業高等学校』の校名をそのまま使用してほしいと思うものの、新設する統合校としてはどうかと考えさせられる。各々の案を尊重しながらも、工業の『工』を入れていただきたい」というものである。

委員から「五所川原工業高等学校」という校名案候補が提案され、県民等からも多くの意見をいただいたことについては、大変ありがたいと思う。しかし、統合に当たり旧校名をそのまま引き継ぐことはどうかと考えさせられる。したがって、この中で「工」が入っている「五所川原工科高等学校」を選ばせていただく。

「五所川原実業高等学校」も良いと思うが、県内では弘前実業高校のネームバリューが大き過ぎる。また、同校には商業科が設置されている。「五所川原総合高等学校」について、事務局は、総合学科でなくても校名に総合を付すことは構わないと説明したが、やはり学科は学校のイメージになると思う。

○　「五所川原実業高等学校」を推す。提案理由の３行目に「実業には専門学科のみというイメージがあるが、全国的に見れば進学等に力を入れている普通科のある学校もある。」と記載されており、このグループの中から選ぶ際には、やはり実業が新しい学校のスタートに一番ふさわしいと思う。

やはり「工」の字が入るとどうしても五所川原工業高校の歴史が前面に出てくるような印象がある。それを否定するものではないが、新しいスタートを切る校名として、「五所川原実業高等学校」がふさわしいと考えた。

○　西北地区は、県内で求人倍率が一番低いことが多く、また、何度も就職氷河期を経ている。普通高校や商業高校から見ると、なぜ工業高校だけが素晴らしい就職実績を残せるのかという思いがあった。これは、学校と企業との強い絆の下で、お互いが信頼して卒業生のやりとりをし不況のときでも就職先を確保してきたことによるものである。

そういう意味では、「五所川原工業高等学校」という名前を残したい思いもあるが、「工」という字を付すことで、今までのつながりを再構築できればという思いから「五所川原工科高等学校」を支持したい。

■　委員長から、専門学科に着目したグループでは、「五所川原工科高等学校」と「五所川原実業高等学校」の２案に絞り込むこととして良いか確認し、委員から了解された。

③理念に着目したグループ

■　委員長から各委員に対し、理念に着目したグループにおいて、どの校名案候補を適当と考えるかについて理由を付して発言するよう求めた。

■　委員から次のような意見があった。

○　「地域創生高等学校」を支持する。理由としては、理念そのものが校名に出ていると考えたからである。

○　私も「地域創生高等学校」を支持する。高校の統合で地域が衰退する中にあっても、統合校として、地域を活性化していただきたいという願いを込めて、この校名を支持する。

○　「五所川原統合高等学校」を支持する。これは、安易に４校が統合になったから統合ということではない。統合の２文字が入ることによって、統合の対象となった４校に、この校名を見た方、聞いた方の思考が及ぶのではないかと考えている。また、その４校が統合になったという点から、統合校には、工業科や普通科が引き継がれていることが想像できると考えている。

○　このグループについては、校名案候補があまりに壮大すぎて、子どもたちにとっても分かりにくいと思う。強いて言えば「五所川原統合高等学校」を推薦したいが、本心としては、推薦できる校名案候補はない。

○　「五所川原志学館高等学校」を支持する。子どもたちにとって、「志」や「学ぶ」という文字が校名に付されていると夢があるような感じがするし、地名も入っている。志学館というと私立学校にも同様の校名があるが、五所川原志学館というのは響きが良い。また、校訓等にも引用できるような印象があるため推薦したい。

○　「地域創生高等学校」については、理念としては良いと思うが、子どもたちが理解できるのかが疑問であり、中学生には親しみがないと思う。また、「五所川原統合高等学校」については、高校の統合が前面に出てしまうため、なじまないと考えている。「五所川原志学館高等学校」については、校名に五所川原と付すことが気に掛かる。
　このグループにおいては、意見を保留させていただく。

○　校名には、地名が入った方が子どもたちにはなじみやすいと思う。理念からすると「地域創生高等学校」も良く、五所川原地域創生高等学校というのも良いと思ったが、校名としては長い。また、「五所川原統合高等学校」については、中学生が果たして素直に選べる校名かという点が懸念される。

志学館については、県立高校ではあまり聞かない名前ではあるが、「志」という文字が付されており、１つ選ぶとすれば「五所川原志学館高等学校」としたい。

○　「志」という文字が入っていること、響きが非常に良いことから、「五所川原志学館高等学校」を推す。

○　ここでいう理念とは、新しい学校をつくるための理念ではなく、統合の理念と解釈をしており、金木高校、板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校の４つが統合するということが理念だと思う。これを踏まえると、単純に「五所川原統合高等学校」が良いと思う。

○　地域創生は政治用語である。また、「五所川原統合高等学校」については、理念に着目すればこの校名案候補を選ぶべきかもしれないが、４校が統合したということを、何十年も先まで引きずることはないと思う。「五所川原志学館高等学校」は、音の響きも良く、良い候補であるとは思うが、意見を控えさせていただく。

○　「五所川原志学館高等学校」を推したい。やはり子どもたちには様々な将来的な夢や思いがあるだろう。それは工業分野や商業分野であったり、あるいは普通科からは看護、医療、福祉の分野にも広がっていく。生徒それぞれの志があれば良いと思っている。
　「五所川原統合高等学校」は、高校の統合をそのまま表現しており、ふさわしくないと考えた。「地域創生高等学校」については、教育よりも社会問題、政治問題に関わってくるものであると考える。もちろん大事なことではあるが、統合校を卒業した子どもたちが、どのくらい地域創生を達成できているかといった評価も非常に難しいと感じた。

○　このグループについては、推薦できる名前がないため、棄権させていただきたい。

■　委員長から各委員に対し、これまでの意見への質問や更なる意見がないか確認した。

■　委員から次のような意見があった。

○　このグループでは、「五所川原志学館高等学校」を推す意見が４件あり最も多かったため、これを候補としてはどうか。

○　理念に着目したグループについては、他のグループに比べて意見の保留が多

いことから、開設準備員会として強い推薦ではないということも考慮してほしい。

■　委員長から、理念に着目したグループでは、「五所川原志学館高等学校」の１案に絞り込むこととして良いか確認し、委員から了解された。

■　委員長から、「五所川原南高等学校」、「津軽中央高等学校」、「五所川原工科高等学校」、「五所川原実業高等学校」、「五所川原志学館高等学校」の５つを西北地区統合校の校名案候補とすることを確認し、委員から了解された。

（２）校訓・校章・校歌・制服の方向性について

■　委員長から事務局に対し、校訓・校章・校歌・制服の方向性に係る意見交換の進め方等について説明を求め、事務局から資料４及び資料５により説明した。

①校訓の方向性について

■　委員から次のような意見があった。

○　五所川原工業高校には校訓がないため、新しいものを制定して良いと思う。その際の決め方も様々あると思うが、例えば、「誠実」という言葉は、五所川原工業高校の校歌に「まこと」ということで入っているし、他の３校の校訓となっている。このような擦り合わせをすれば決められると思う。

○　校訓については、五所川原工業高校も統合になるため、共通しているものは生かしつつも、新たに制定すれば良いと思う。冒頭で、ワーキンググループの設置について話題になったが、その中で共通のものを生かしつつ、新たな校訓を検討してはどうか。

○　校訓はいらないと思う。学校標語のようなものがあれば良いのではないか。第１回開設準備委員会で五所川原工業高校を校内見学した際、目に入ったのが「全校一体一家族」という学校標語であった。
　企業等でも様々な倫理や道徳を掲げているが、様々なフォーラムに出席すると、「全校一体一家族」ではないが、やはり利他の心、思いやり、人のために尽くすといったものをテーマにしているものが非常に多い。このようなことは、統合校においても一番大事なことであると思う。

■　委員長から、校訓については統合対象校の４校の校訓を参考にしながら、ワーキンググループや開設準備室において新たに検討を進める旨を確認し、委員から了解された。

②学校標語の方向性について

■　委員から次のような意見があった。

○　校訓をワーキンググループや開設準備室で検討するのであれば、学校標語も併せて検討する方向で進めた方が良い。

■　委員長から、学校標語については鶴田高校及び五所川原工業高校の学校標語を参考にしながら、ワーキンググループや開設準備室において新たに検討を進める旨を確認し、委員から了解された。

③校章・校歌・制服の方向性について

■　委員から次のような意見があった。

○　資料の補足をさせていただく。五所川原工業高校の校章の制定年は昭和３８年であり、図案者は初代校長の鈴木太左衛門氏となっている。

　校章のマークについて、一番下にあるのは円ではなく球であり、球の上に「工」の字を被せ、更にその上に高校の「高」の字を置いたものを想定している。球は、人間形成の基盤を意味しており、「工」の字の上下に表れている丸みが球の断片となる。「工」の字は工業を意味し、左右の端が鉈で切断したように鋭くなっているが、これは、学問、技術の厳しさ、鋭さを表現するものとされている。そして、「高」の字は高等学校の意味であり、五所川原や津軽、青森県といった小さな殻に閉じこもらずに、世界を動かす人材になるよう念じているという初代校長による図案の解説があったので、補足説明させていただく。

○　私は、一貫した考え方の中で議論してきたつもりである。校名は、先ほど絞込みした５つの候補から選ばれると思うが、五所川原工業高校から変えても良い。また、校訓についても、五所川原工業高校には校訓がなく、新しく制定しても構わない。校歌については、校名が変わるのであれば変わって当然だと思う。制服も変えて良いと思う。

　しかし、この校章だけは変えないでいただきたい。工業の「工」にこだわると、吸収統合であると言われると思うが、例えば令和３年度のとき、五所川原工業高校の２年生、３年生が在籍しており、その生徒たちは現在の校章を付けて様々な場面に出ていく。このような中で、校章が２つあるのは違和感がある。既存の校章を使用したからといって、決して吸収統合ではない。五所川原工業高校の校舎が改築になり、様々な部分に現在の校章が付いている中で、その校章を取り外す必要があるだろうか。五所川原工業高校の２年生、３年生が在籍している間の校章の取扱い等々についても考えていただきたい。

　校名も、校訓も、校歌も、制服も変えて構わないが、校章を変えないことだけは何とか御理解いただきたい。本当にわがままな意見であるが、意見として

取り上げていただきたいと思う。

○　現在の五所川原工業高校の校章、これは統合校の象徴として十分ふさわしいと解釈できると思う。校章というのは、単なる学校を表すマークではなく、願いや希望を込めたシンボルであって、学校に集う者たちの胸に輝かせる誇りであると思う。

五所川原工業高校の校章は、球の上に「工」の字を置き、その上に高校の「高」を組み合わせたものである。

球体の法則というものがあるが、ドイツのフレーベルという教育学者が「人間の教育」という著書において、球体の法則は、多様性を持った者同士であっても、最終的には一つに収斂していく、一つにまとまっていく法則であると主張している。

このことを念頭に現在の校章が制定されたかは不明であるが、このような意味で統合対象校の４校の思いが一つにまとまり、既存の校章である丸みを帯びた球として引き継いでいくという方向でも良いのではないか。そして、工業を意味する「工」の字は、解釈を別にして学問と捉え、普通科で学ぶ学問、工業科で学ぶ技術、これらの厳しさや鋭さと解釈をすれば、これはまさしく統合校の象徴として十分ふさわしく、入学してくる生徒や学校関係者が誇れる校章であると思う。

○　思いは非常に分かるが、統合対象校４校が断腸の思いで閉校するものであり、どの学校にも歴史があり校章がある。やはり統合校のスタートをスムーズにするには、校章も変えるべきであると思う。

○　私も新たに制定すべきだと思う。制定に当たっては、ただ単にデザイナーに任せるのではなく、統合対象校４校に共通する岩木山と岩木川をデザインに加えながら制定すれば良いと思っていた。今回、五所川原工業高校の校章制定に至った理念等も伺ったため、岩木山、岩木川や、球体という理念を取り入れながら、新しく制定してはどうか。

○　やはり４校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきだと思う。新しい学校になるため、校名だけでなく校章も変わっていくのが当然ではないかと思う。

鶴田町では、小学校６校を統合して１校となる。鶴田町に１校しかない小学校ということで、校名は鶴田小学校に決まったが、それ以外は全て変えたこともあり、西北地区統合校においても変えるべきであると思う。

○　校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。既存の校章を使うという意見を尊重しつつも、統合校であるから新たな校章を望みたい。

○　私も新しく制定する方が良いと思う。制定方法が公募になるのか、デザイナーへの委託なのか、あるいは学校関係者による制作になるのかは分からないが、デザインに取り入れてほしい観点や視点を示すことで、委員の意見が生かされると思う。ただし、新しく制定するのであれば、子どもたち自身が良いと思えるような、校章、校歌、制服であってほしい。

○　五所川原工業高校と他の３校との話合いであるため、このような意見の割れ方をするだろう。五所川原工業高校として、これだけは守りたいという部分を述べたが、他の３校からすれば校章も新たにすべきだという意見は当たり前だと思う。

　しかし、一時期ではあるが生徒が２つの校章を使う時期があるということを考える必要があり、それからまた、五所川原工業高校の校舎を使うのだから、現在あるものを使おうという思いにもなっていただきたい。

　鶴田町の小学校のように、統合により新しい校舎を建てるのであれば、校章も含めて全て変えれば良い。しかし、現在あるものを使うことも必要であるという意見であり、吸収統合であるとは一切思っていない。

○　私は、校章と制服は五所川原工業高校のものを引き継いでも良いと思っている。校章に関しては、五所川原工業高校が大事にしてきた理念があるということが分かった。校章はこのままで良いと思っているが、統合に際しての理念を付け加えていただければありがたいと思う。

　制服については、どの学校もブレザーであり素敵だが、五所川原工業高校の制服も時代に沿って素敵な制服だと思っている。今までの意見になかった考えとしては、経済的に困っている保護者の方もいる中で、制服を一新してしまうと、多くの家庭では制服のスペアも用意したいと思うが、その際に兄弟や卒業生から譲り受けるということができなくなると思う。

　制服も校歌も校章も含め全てのことを開設準備室で検討するには、時間的に大変な面もあるため、私としては校章のデザインに関してはこだわらず、五所川原工業高校のものを引き継ぎ、今回の統合に関する理念を１つ入れていただければ良いと思う。

○　統合校と五所川原工業高校の生徒が混在する期間において、校歌が変わった場合、生徒は２つの校歌を歌うことになるのか。

→（事務局）１年先行して統合準備を進めている中南地区統合校については、黒石商業高校と黒石高校の校歌を併用していくこととし、例えば入学式や卒業式における校歌の使い方に関しては、学校の工夫により、２つの校歌を生かしていくという方向性で整理している。

　西北地区統合校において新しく校歌を制定する場合、例えば入学式等の統合校の生徒のみに関する行事の際には新しい校歌を歌うこととするのか、統合校と五所川原工業高校の生徒全体が関わる行事ではどのような取扱いとするのか

といった点については、開設準備室で検討することを想定している。

○　そのようなことを考えると、統合校の使用校舎となる五所川原工業高校には大変な負担が生じると思う。

　しかし、このような中でも、やはり全て変えた方が良いと思う。統合校の生徒の校章は新しいもの、五所川原工業高校の２年生、３年生は既存のものとしても、それほど違和感はないと思う。校章については、各校の思いを汲み取れるようなデザインをデザイナーに委託した方が良いと思う。校章だけは残し、それ以外は変えるというのは、逆に不自然であると思う。制服については、中学校でも１年生は新しい制服、２、３年生は既存の制服を着用する場合はある。式典等の行事を考えると、校章よりも校歌が一番影響あると思うが、統合してから数年間は行事によって使い分けをし、統合から２、３年経過すれば不自然さは解消される。

　今回の統合は非常に難しい統合であることを踏まえると、五所川原工業高校関係者の思いは様々あるだろうが、統合校では工業科の学級数が多いことを考慮しながら新たなデザインで校章を制定すれば良いと思う。

○　建物にどれだけの予算を使うのかということだと思う。制服は、新入生が受益者負担として自身が用意するものである。校章や校歌等に関しては、学校であり県が用意するものである。校章や校歌を入れ替えるためにどれだけの予算が費やされて、それに見合う効果があるのか。各委員の意見は、校章に関してはこだわりがないとか、統合なのだから新しくすべきといったものだったが、あえて校章を変更することに予算を使うのではなく、財政当局に掛け合って、統合校に入学してくる生徒のために使える予算取りをしていただきたい。

○　４校統合なので、新しく校舎も建てることが本来の理想だが、県の財政面も考慮し、あえて既存の五所川原工業高校の校舎を使うという計画であると思う。したがって、４校の高校を１つに統合するためには、やはり校章や校歌、制服は新しくせざるを得ないと思う。

○　２年間という短い期間ではあるが、開校当初の統合校に新入生が入学すると、その新入生は工業高校のシステムの中に統合校の１年生として在籍することとなる。このような中、統合校の１年生として新たに統合校の伝統を築き上げていくための働きかけを、統合校と五所川原工業高校を兼務する教員が行わなくてはならない。

　開校当初、生徒がどういうシステムの中にいるのか、そしてそのシステムの中で学びを深める際に、統合校の生徒と五所川原工業高校の生徒が異なる校章を掲げて活動していくことが、果たして子どもたちにとって良いのかを考えると、五所川原工業高校の校章を残すという意味ではなく、校章のデザインをそのまま活用すれば良いと考える。

統合校の新入生は、制服等を一新することで気持ちを一新し、自分たちが歴史や伝統を築いていくという気概を持って教育活動に取り組んでもらい、そして、同時に在籍する先輩たちは五所川原工業高校の生徒として、統合校の生徒と接して切磋琢磨していくことが望まれる。

○　校名案もまだ決定していないにもかかわらず、校章について議論するのは早いと感じる。五所川原工業高校の校章は、どう見ても工業の「工」に見えるが、先ほど絞り込んだ校名案候補の５つの中から、例えば「五所川原工科高等学校」が選ばれたとすれば校章はこのままで良いと思う。一方で、別の校名になった場合、校名に「工」は入らないので、一新した方が良いと感じる。

■　委員長から、校章・校歌・制服の方向性については、本日の意見を事務局で整理し、次回の会議で再度検討する旨確認し、委員から了解された。

（３）統合対象校の記念物品の展示について

■　委員から次のような意見があった。

○　記念物品については、五所川原工業高校の校舎への搬入が想定されるが、その時期は統合校が開校してから２年後の令和５年３月と考えている。現在、五所川原工業高校の校舎が改築され、空き教室等はない状態である。統合を見据え普通科の教室棟の改修計画も進んでいるが、統合対象校４校分の記念物品の量を考えると、展示できるような適当な場所が見つからないのが現状である。このことについては、少し時間もあるため、御意見を伺いながら検討を進めていきたいと思っている。

○　各校の記念物品の量はかなり多く、統合校への収納は厳しいものがあると思う。また、同窓生等のことも考えると、例えば記念物品の一部を地元の施設を間借りして展示するという方法は考えられないか。

○　地元の教育行政を預かる者として、恐らくそうなると思っていた。統合対象校の校舎が残るのであれば、その一角を記念物品の展示に使用することもできるだろう。しかし、校舎が最終的にどうなるのかは県が判断するものである。町の空き校舎にお金をかけて様々なことができるかというと、非常に厳しいところもあり何とも言えない。各学校にある記念物品を全て五所川原工業高校の校舎に展示するのは当然無理であり、各学校でも統合校に展示してほしい物品を精査する必要があると思う。

■　委員長から、記念物品については、各市町における受入場所が限られていることも踏まえながら、展示内容等を開設準備室において更に検討する旨確認し、委員から了解された。

（４）統合対象校の事務の引継ぎについて

■　委員長から事務局に対し、統合対象校の事務の引継ぎ方針について説明を求め、事務局から資料７により説明した。

■　委員から次のような意見があった。

○　各校では、指導要録を過去２０年分保存しており、収受した文書は保存年限に応じて１０年以上保存されているものもある。記念物品と併せて、それらの文書が統合校の校舎に搬入されることとなる。

各校の文書量がどの程度になるのか、金庫はいくつ必要になるのかといった点について、金庫を新たに置く場所の確保等が厳しいため、文書を実際に移動するまでに検討していく必要がある。

■　委員長から、事務の引継ぎについては、統合対象校、統合校及び県教育委員会が連携を図りながら、事務手続きを進めていく旨確認し、委員から了解された。

（５）その他

■　委員から次のような意見があった。

○　記念物品の展示について、我々同窓生から見ると、やはり地元に残したいと思う。それが我々にとって価値のあることだと思う。

また、この会議の方向性とは異なる意見だが、校舎の跡地がどのように活用されていくのか疑問である。現在は在校生がいるため、県教育委員会も答えにくいとは思うが、校舎の跡地利用は気になる。例えば、地元と県教育委員会がいつ頃から話合いを持つのか等について伺いたい。

→（事務局）閉校校舎の利活用については、青森県公共建築物利活用方針に基づき、まず県全体で検討を行うこととなる。まず、県の施設として活用するか県の内部で検討し、活用しないとなった場合には、地元市町村に対し使用予定に係る意向調査をすることとなる。地元市町村でも活用しないとなれば、民間企業への売却といった検討の流れが定められている。

具体的な検討時期については、現時点で明確に申し上げられないが、地元市町村の意向が分かったら、また御相談させていただくことになると思う。

次に、記念物品について、先ほど地元の施設には展示する場所がないといった意見もあったが、今後、各校の同窓会の意向も伺いながら御相談させていただきたい。

４　閉会